

情報連絡員報告総括表（平成27年5月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況		
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化
製 造 業	食料品		3	1		4		1	3			4		2	2		3	1		4				3	1		2	2
	繊維工業		1	2		2	1	1	2			2	1	2	1		3			3				3			2	1
	木材・木製品			1			1			1			1		1		1				1			1				1
	紙・紙加工品		1	1		2			2			2		1	1		2			1	1			2			1	1
	印刷		1			1			1			1			1		1			1				1			1	
	化学・ゴム																											
	窯業・土石製品	2		1		3			3			3			3			3			2	1		1	2			3
	鉄鋼・金属		1			1			1			1			1		1				1			1				1
	一般機器		2	1	1	1	1		3			2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2		2	1
	電気機器			1		1				1		1			1			1				1		1				1
輸送機器			1		1			1			1			1			1				1		1				1	
その他																												
小計		2	9	9	1	16	3	2	16	2		17	3	1	9	10	1	15	4	1	13	6	2	15	3		11	9
非 製 造 業	卸売業		1	1		1	1	1	1		2			2		2							2				2	
	小売業	2	2	2		5	1	3	2	1		3	3		1	5		2	4				5	1		3	3	
	商店街	1				1		1				1			1			1					1			1		
	サービス業		3	2					5			5			4	1		4	1				5			5		
	建設業	2	2						4			4		1	3		1	3					4			1	3	
	運輸業	1							1			1		1			1						1			1		
	その他		1						1			1			1			1					1			1		
小計		6	9	5		7	2	5	14	1		17	3	2	10	8	1	14	5				19	1		2	13	5
合計		8	18	14	1	23	5	7	30	3		34	6	3	19	18	2	29	9	1	13	6	2	34	4	2	24	14

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(平成26年5月～平成27年5月)

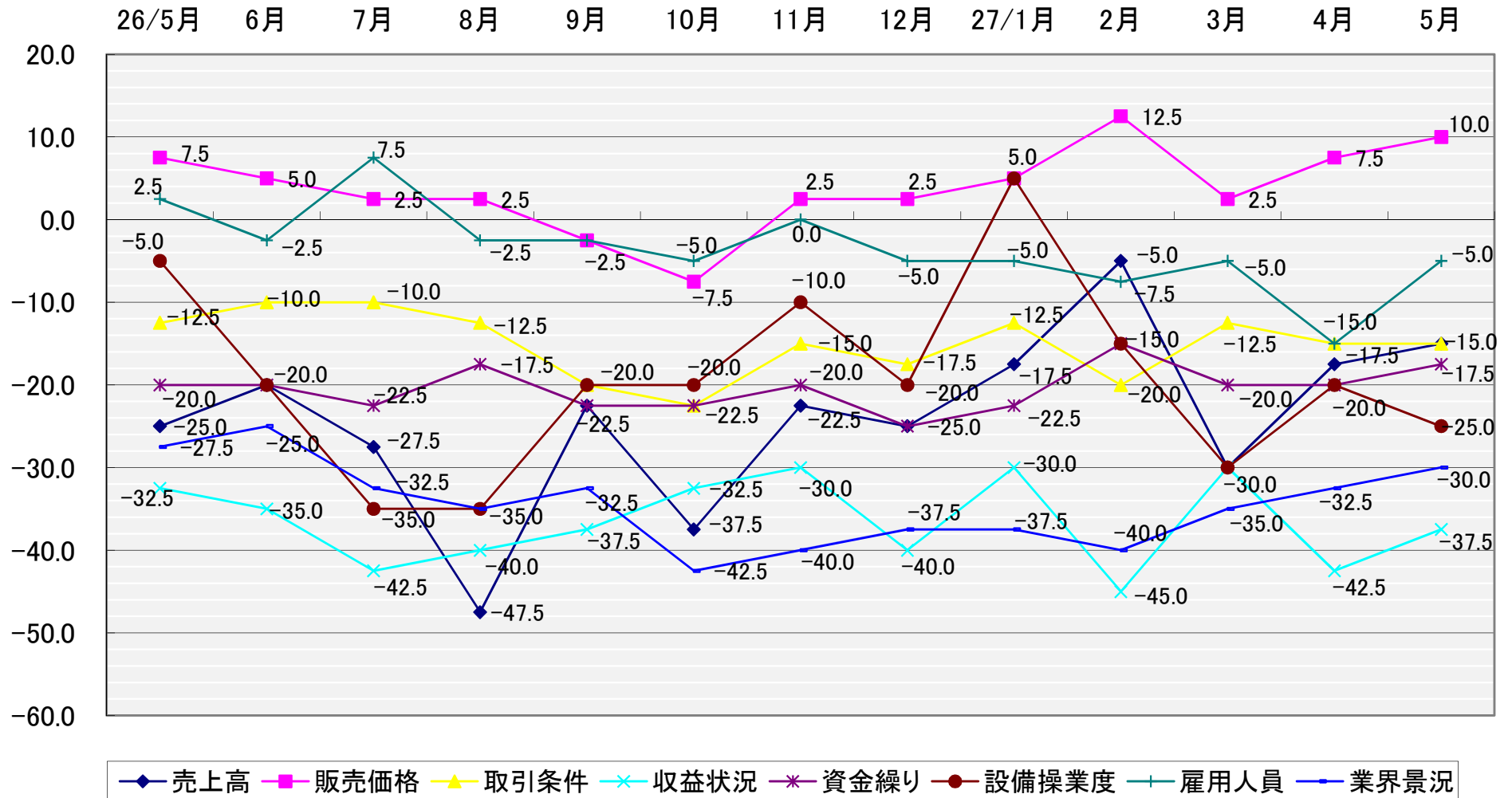
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	26/5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27/1月	2月	3月	4月	5月	増減
売上高	-25.0	-20.0	-27.5	-47.5	-22.5	-37.5	-22.5	-25.0	-17.5	-5.0	-30.0	-17.5	-15.0	2.5
販売価格	7.5	5.0	2.5	2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	5.0	12.5	2.5	7.5	10.0	2.5
取引条件	-12.5	-10.0	-10.0	-12.5	-20.0	-22.5	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-12.5	-15.0	-15.0	0.0
収益状況	-32.5	-35.0	-42.5	-40.0	-37.5	-32.5	-30.0	-40.0	-30.0	-45.0	-30.0	-42.5	-37.5	5.0
資金繰り	-20.0	-20.0	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	-25.0	-22.5	-15.0	-20.0	-20.0	-17.5	2.5
設備操業度	-5.0	-20.0	-35.0	-35.0	-20.0	-20.0	-10.0	-20.0	5.0	-15.0	-30.0	-20.0	-25.0	-5.0
雇用人員	2.5	-2.5	7.5	-2.5	-2.5	-5.0	0.0	-5.0	-5.0	-7.5	-5.0	-15.0	-5.0	10.0
業界景況	-27.5	-25.0	-32.5	-35.0	-32.5	-42.5	-40.0	-37.5	-37.5	-40.0	-35.0	-32.5	-30.0	2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成27年5月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食品	漬物	先月に続き、新規組合員加入が1社あり、久しぶりに組合員数の増加となった。5月12日から16日までの「本場の本物」伊勢たくわんのイタリア・ミラノ万博日本館での試食等に続き、7月1日から4日までの三重県ウィークでの出展と、6月24日～7月7日までミラノ市内でテストマーケティングを予定しており、各種情報の提供と収集等に努めることとしている。
		醤油味噌	原材料仕入単価が上昇しても、製品に転嫁できない状況が続いている。このところまた円安傾向であるため、さらに輸入原材料・仕入単価の上昇が懸念される。
		豆腐	5月30日に平成27年度通常総会を開催した。その席上で四日市の1組合員が廃業するとの報告があり、組合員が10名となった。
		麺	生めん、冷凍めんは昨年比べて資材・副資材・原料の高騰が続き、価格に反映がされない状況である。唯一伊勢うどんについては今回伊勢志摩サミットが決定し、今後伊勢うどんをPRしていけるチャンスである。いろんな企画に取り上げてもらえる様、組合をあげて取り組んでいく。
	繊維工業	テントシート	エアバックのリコール問題で年明けからホンダ関係の仕事の発注が減少している。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	暑い日が続き、飲料関係の段ボールの出荷は増えたが、この分野は大手が独占している為、我々組合員には影響が少ない。反対にその暑さの為、農産物向けの段ボールの出荷が減少した。
		古紙	5月期の仕入量は前年比で段ボール：約96±5%、新聞・チラシ：約94±6%、雑誌・雑紙・その他合わせて：約97±5%の中での推移と思われる。東北地震から更に悪くなり、本年は前々年、前年の入荷状況が悪いのが普通となり、前年同月比は底打ち感になってきている。情勢は変わらず組合員の取引先や集荷形態によって集荷量や収益に格段の差がある。一段と円安が続き、輸出できるほどの古紙が集まれば赤字補填が可能となるのだが、難しいのが現状である。景気上昇は金融や一部の業界で、製紙業界ましてや原料関係には現時点で影響が少ないと思う。異業種参入や回収方法の多様化、得意先の取り合い、入札物件の競争激化、段ボール古紙集荷の寡占化(管理会社管轄)等々、経営環境はアメリカンスタンダード化した大資本に有利な自由主義で、家内の分業制の日本国内の中小零細企業は大企業等の中間管理職に選ばれての適者生存となり、大変厳しい時代到来となった。
	印刷	印刷	組合事業として製作販売した三重県民手帳の売上金の一部を(社)三重県緑化推進協会へ寄付することができた。業界としては厳しい業況が続いているが、今後の印刷業務に関する学びも多く、地域社会貢献とともに組合の収益事業にもなった。今年度も新企画を検討し、三重県の企画コンペに参加する。
	窯業・土石製品	伊賀焼	5月はガソリン価格が昨年より安く安定していることや、天候にも恵まれ、売上は伊賀焼伝統産業会館では昨年を上回り、伊賀・信楽古陶館では昨年並みであった。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、全体的に4月とほぼ同様であった。自動車関連部品はメーカーにより減少したままの企業と、従前と変わらなかった企業と二分された状態が続いた。半導体関連は4月より若干ではあるが落ち込んだ傾向であった。6月以降も同様の動きになると想定される。円安による国内加工へとシフトの状態は4月同様であった。
一般機器	北勢	株高、円安などの理由で景況が好転しているかのように伝えられているが、中小企業にとって原材料高、消費税アップ等で全国385万社の企業のうち、利益を確保したのは僅か30%にすぎず、まだ不透明な状況にある。各社「自助努力」で頑張っている。	
	北勢	輸送用機械器具製造業においては、昨年秋から三重県内の自動車メーカーの生産量が大幅に減少したことに伴い、下請け各社は売上高の減少が続いている。一般機械器具製造業の特に建築・土木関連資材の需要が増加し、売上、利益とも増加している。	
電気機器	南勢	中だるみの状態に入り、発注受注に対しても2～4月と比べて10%以上ダウンしており、またコスト面でも厳しい状態になっている。	
輸送機器	北勢	こここのところ量産部品の仕事量は落ち込んでいるが、小ロット製品の新規や移管での見積引き合いは増えているようである。求人に対しての応募者は冬場に比べて少なくなっている。	
非製造業	小売業	青果	野菜は前半は天候不良に加え、急な気温上昇と連休のためレタス・大根・ジャガイモ・玉ねぎを中心に高値である。特にキャベツは例年の倍ほどの価格である。後半は品薄が続いていたキャベツは入荷が回復し、相場も例年並みである。キュウリ・トマト・ナスは安定して入荷しており、ラッキョウは生産地鳥取からの入荷が5月末から6月上旬に最盛期となっている。果物はこの時期に豊富になってくる。メロン・スイカが少なく高値で、手頃なものは甘夏ぐらいであるが、後半はスイカも愛知県産を中心に入荷が増えた。
		自転車	2014年度国内の自転車産業の動向が発表された。①国内生産台数95万2千台(対前年比：98.6%)②輸入台数773万4千台(対前年比：97.5%)③国内需要台数868万6千台(対前比：97.6%)となり、2011年の東日本大震災を除き、減少傾向が続いている。国内生産の中でも47万9千台は電動アシスト車で、全体の過半数を占めており、いかに海外(中国)生産に頼っているかがわかる。それによって部品製品の欠陥、欠品によりさらにメーカー側も先を読みづらく商機を逸してしまい、小売店にとっては厳しい経営を強いられる事となる。

非製造業	小売業	家電	5月度は各地で記録的な暑さでエアコンの需要が高まったが、景気そのものを大きく引き上げる強さはなく、全体としては厳しい状況であると思われる。県内ではメーカー別に合同展示会が実施され、4K対応テレビ等、高機能の話題商品を中心に堅調な推移をしている。また夏の合同展示会としては前年を越える成果がみられる。しかし家電全体の底上げ感はなく、家まるごとリフォームや太陽光発電等新たな分野への取り組みが課題となっている。
		石油	ゴールデンウィーク商戦については、天候にも恵まれ郊外の給油所については前年の販売数量を大きく達成したところもあったが、全般において5月度としては15日以降の販売減と原油価格の値上げに伴う販売価格の低迷により、収益的に厳しい内容で終わった。以前より若者の車離れが深刻化してきており、車運転免許保有者の年齢構成にも高齢ドライバーが増加、若手ドライバーが減少する構造になってきており、今後SSサービスを行う課題として考えさせられる。
		スポーツ用品	インターハイ（平成30年）、国民体育大会（平成32年）に向けて少しずつであるが準備が始まってきた。元々スポーツ用品業界に關係するビジネスチャンスはないが、国体準備員の作業用ブルゾンのポロシャツ等、僅かな数量ではあるが、組合として受注し、納品した。ここ2、3年倒産、廃業はないので安堵している。
	商店街	熊野	今年のゴールデンウィークは5連休となった後半に人出が集中し、昨年できた高規格道延伸化の効果もあり、道の駅等観光施設の集客も昨年以上のものであった。また今月末、駅前で開催された市主催のイベントは今年も商店街の朝市イベントとの連携をはかり隣接開催した結果、一層の集客効果となり、出店業者全体の売上も従来以上のものであった。
	サービス業	旅館	5月のGWは休日が続く、天候にも恵まれ県内各地とも賑わっていたようであり、その期間はどこも前年を上回る集客があったようである。GWの後の週は例年閑散となるものの、翌週よりは通常通りの集客に回復していたが、今年は伸びが弱く、全体的には低調であった。
		飲食業	消費者センター等に寄せられる飲食店経営を取り巻く客とのトラブルの多くは、予約や支払いをめぐる苦情が多いと言われている。予約を受ける際のキャンセル料や変更についての期日を明確に伝えることや、前日には確認の電話やメール対応することで、トラブルを防ぐことができる。今後も多様化する消費者ニーズにも自店でのクレーム処理等にも十分な対応が必要とされており、組合としてもインバウンド対応を含めたマニュアル等の整備を行っていかねばならない。
		警備業	5月1日～6月までの連休で仕事量が減少した分売上高が減少した。
	建設業	総合工事業	受注高は対前年同月比で20%の増となったが、絶対量が不足しているため、景況が好転するには至っていない。
		内装工事業	5月は少しいたが売上の増加がみられ、前年同月比もわずかに増加となった。新しい年度になってこの流れが継続されるかは不確定となる。
		水道工事業（北勢）	材料関係の価格が上昇傾向にある。また人手不足等もあり、協力会社への発注価格も上昇している。全体的にコストアップが続いている。
運輸業	トラック	燃料価格は高値で推移するも、前年同期に比べると値下がった状況にあり、収支改善にプラス効果となっている。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今後サミットの開催に向けて三重県をあげていろいろな取り組みに協力できるよう取り組んでいきたい。三重県の産業をあげて三重をアピールして欲しい。
紙・紙加工品	古紙	統一地方選による投票用紙やポスターの断裁屑が製紙原料古紙に混入し、後処理対応をしている。開票時に自然に開くとか、雨や風に晒されても破れないなどのプラスチック製の紙で破くことしか判別できず、木材パルプ製の製紙原料としては水に溶けず禁忌品となる。以前古紙持ち去り行為をしていた人が正規の企業として自立支援を受けて古紙回収をしている。きちんとした仕事が出来ているということで良い方向だとは思いますが信用問題等を考えると今は取引ができないし、その地区の組合員の集荷量は激減したままである。
一般機器	北勢	少ない人員でより効率よく企業経営ができる手法、経営改善の施策を教えて欲しい。
	南勢	国（経済産業省等）の補助金制度は非常に手続きが煩雑で公募要領を読むうちに申請をあきらめてしまう。制度の主旨が設備投資を促すことにあるならもう少し簡易な手続きにしたい。
サービス業	旅館	外国人研修生の在留期間（現行1年）の延長（2～3年）を検討してもらいたい。